

2015/7/1

しろひげ@Kurobane です。

7月になりました。

「六月みそかは年の臍」という言葉があります。

6月30日は一年の真ん中で、今年も半分を過ぎたことをいいます。  
大股で急ぐ歳月に、蝸牛のスローな歩みがうらやましい雨の月です。

「臍」から私は奇妙な連想をしました。

この季節、天気図を見ながら、弓なりの日本列島がバスタブにくつろぐ人体に見えてくる  
ことが多くなります。(私だけでしょうか?)

だとすれば、この国の臍は、そして私が住むこの地はいったい身体のどのあたり、という、  
らちもない飛躍です。

当地もようやく梅雨入りをしましたが、数日前までは雨が少なく、農家の皆さんは空梅雨  
かと心配しておりました。

ついこの間までは、この人体は下半身浴をまだ楽しんでいるのかしら・・・などと、連想の  
翼を広げて一人悦に入っていました。

さらに、ここまでいくと妄想でしょうか。

鬱陶しい雨なら何とか許せますが、今、私たちには「集団的自衛権」とかいう言葉が連日  
のように降りかぶっています。

難解で空疎な修辞が行き交うにしても、とどのつまりは「他人の喧嘩を買って出る」のが  
真意であるならば、この人体は果たしてバスタブなどにゆつくりと浸っている暇などなくなる  
のでしょうか。

黴が生えやすいので、梅雨のことを黴雨(ばいう)とも書きます。

黴という字の鬱々と字面かな 富安風生

字を眺めるだけでじつと湿度を増すだけならば救われますが、耳にするだけ危機感を増す言葉はまっぴらです。

たとえ、妄想と言われても自分の思考と想像力には、決して黴を生えさせてたくありません。

そして、たんなる私の妄想で終わることを、さわやかな梅雨明けを迎えることができるのを、祈ってやみません。

こんな決意で私の一年の後半が始まりました。

黒羽根整形外科  
黒羽根洋司